

令和 2 年 2 月 21 日

教 育 長 様

代表者 校 園 名 : 大阪市立梅南中学校

校園長名 : 柿花 正信

電 話 : 06-6658-4321 F A X : 06-6658-4067

事務職員名 : 松藤 尚起 上條 貴彦

申請者 校 園 名 : 大阪市立西中学校

職名・名前 : 教諭・寺本 紀夫

電 話 : 06-6582-5040 F A X : 06-6582-0569

校印

研究コース	
グループ研究B	
選定番号	251
校園コード (代表者校園の市費コード)	
762756	

平成31年度 「がんばる先生支援」研究支援 報告書

◇平成31年度「がんばる先生支援」研究支援について、次のとおり報告します。

1	研究コース	コース名	グループ研究B	研究年数	新規研究 (1年目)
2	研究テーマ	学習指導要領によるすべての生徒の発達を支援する担当教員の実践力向上			
3	研究目的	・学習指導要領が改定され、総則で生徒の発達の支援が打ち出され、特別支援教育に関しても学校全体での協力体制の必要性が示されている。 ・障害者差別解消法への対応も含め、校内での特別支援教育担当教員の専門性と実践力がより一層求められている。 ・一方で経験豊富なベテラン教員の大量退職期をピークアウトし、本市中学校の特別支援教育担当教員約500名中、講師と35歳以下の若手教諭は63%に上り、専門性の向上と経験の継承は喫緊の課題になっている。(昨年度状況) ・学校の枠を超えた全市的な教育活動と研究活動を通して、生徒の発達を多くの学校で共有するとともに、専門性や実践力を兼ね備え校内をリードできる人材を育成する。			
4	取り組んだ研究内容	いつ、何のために、どのようなことを実施したのかを具体的に記載してください。 ①インクルーシブ・フレッシュ研修会の開催 (詳細は添付活動報告を参照) ・自主研修会の開催 : 7/5、1/27、2/6 ・大阪特別支援教育振興会の学習講座への参加 : 9/6、9/20、9/27、11/1、11/8、11/22、11/29 ②近特連 (近畿研究大会) への参加 : 8/9 ③全特連 (全日本特別支援教育研究連盟) 発達障害教育夏期セミナーの開催 ・平成30年度に引き続き現地事務局を立ち上げ開催実務を担当 ・協力スタッフの全体会議 : 6/26、その後担当ごとに適宜開催 ・前日準備 : 8/19 (資料準備、会場準備、受付準備) ・開催運営 : 8/20, 21 ④全特連 (全国研究大会) への若手教員の派遣 : 10/17, 18 ⑤上記活動を通して、若手の先生に積極的に参加してもらう。 ⑥研究発表会 : 2/20 教育センターにて研究発表会を開催する。			

5	成果・課題	大阪府教育振興基本計画に示されている、 <u>子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</u> および <u>教員の資質や指導力の向上</u> について、申請書に記載した検証方法から得られた結果と、それらからの結果に基づいた考察を、具体的に記載してください。			
		○ふれあい行事はステイ・デイキャンプ共に大きなトラブルなく成功裏に終了できた。終了後の満足度調査では参加生徒の99%、引率教師の98%から肯定的回答を得ることができた。（添付活動報告に内訳を掲載） また行事の実行委員に35歳以下の若手教員が積極的に携わり（ステイでは17人中13人、デイキャンプでは12人中8人）、組織運営や活動管理の経験を積む機会になった。			
		○近特連滋賀県大会に大阪市中学校より8名が参加し、本市中学校からの分科会提案者司会者とともに分科会にて研究を深めることができた。また全特連埼玉大会に若手教員2名を派遣し、全国の研究活動に見識を広め今後の研究活動の推進に役立てることができた。 これら全特連および近特連参加者より6本の参加レポートを得た。（添付活動報告に掲載）			
		○全特連主催の夏期セミナーを開催し、2日間で延べ270名の参加者を得た。 また開催にあたって大阪市中学校より延べ50名の教員がスタッフとして運営に携わり、今後の大規模な研究活動行事を開催運営していくノウハウの蓄積や人材の育成に資することができた。			
		○中教研特別支援教育部が企画運営する若手教員対象研修会（インクルーシブ・フレッシュ研修会）を通算10回開催し延べ100名の参加者を得た。参加教員の満足度調査アンケートで93%以上の肯定的回答を得た。（活動状況の詳細は添付活動報告に掲載）			
		○2月20日の中教研特別支援教育部の年度末研修報告会に92校が参加し、そこでの報告を通して研究成果を市内全中学校に広めた。欠席校には活動報告を掲載した機関誌の発行を通して広報する。			
6	研究発表等の日程・場所・参加者数	○活動全体を通して、若手教員の活性化と特別支援教育組織の若返りが図られ、経験の継承が着実に推進されている。 本活動全体で（近特連全特連の参加レポートを除いて）11本の参加レポートを得た。（添付活動報告に掲載） また35歳以下の特別支援教育企画会役員は4名から5名に、事業担当者は14名から15名に増加し組織の若返りが進みつつある。			
		《まとめ》 学習指導要領改訂に伴う生徒の発達を支援する担当教員を若手教員育成の観点から、インクルーシブ・フレッシュ研修会の取組を中心に進めてきた。その中で意欲ある若手教員を中心に専門性向上のための講座参加や大きな研究大会、全学的な行事の実施等を通して広い視野と深い専門性を培う活動を実践することができた。 またこれらの活動を通して、若手教員相互の連携の機会を提供し、ベテラン教員との交流を通じた悩みや課題等への助言の場を持つことができ、学校現場では孤立しがちになることもある特別支援教育担当教員に対して大いに力付けることができたと考えられる。			
		《課題》 この研究活動を通して、すべての生徒の発達を支援する特別支援教育担当の教員の専門性や実践力の向上に一定以上の効果を上げることができたと考える。しかしながら本市中学校の特別支援教育担当教員は500名以上おり、その規模の中では成果は限定的とも言える。 学校現場において講師は研修等に出にくい状況があり、また教諭採用となった若手教員がなべて専門性向上の研鑽に意欲的とは限らないと感じられる中、ややもするとこの取組への参加者の顔ぶれが固定化されている状況が見られた。 今後はより幅広い層への実践力向上の働きかけ方を創出して行く必要がある。			
		研究発表等を実施した日・場所・参加者数を記載してください。			
		日程	2 年 2 月 20 日	参加者数	約 116 名
		場所	大阪市教育センター		
	備考	大阪市立中学校長会特別支援教育部の同事業選定（グループ研究B（選定番号250））についての研究発表も併せて実施			